

千葉大学医学部同窓会報 第101号 題字 鈴木五郎

編集発行者

千葉大学医学部

るのな同窓会報編集部

〒260 千葉市中央区玄鼻1-8-1

千葉大学医学部内

るのな同窓会

電話千葉 (043) 222-7171内線2038

学長再選のご挨拶

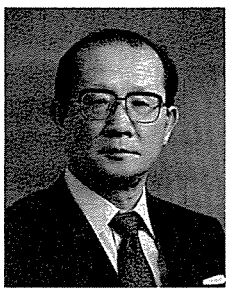
千葉大学長

吉田

亮 (昭23年卒)

一九八八年からの四年間に続いて、更に二年間、千葉大学長の大任を果たしていただくことになりました。この間、直接、間接にいただいたるのな同窓会の皆様のご高配に対して、厚く御礼申し上げます。

千葉大学は九学部一教養部を有するマンモス大学で、学部学生収容定員は一一、〇八〇人(平成三



年度と、国立大学では、東京大学、京都大学、広島大学に次いで第四位にあります。しかし、それに比べて教職員数は少なく、教員一〇〇人当学生数をみますと、八二・三、八で東大(三七・六)、京大(四〇・五、九)とは比較にならないとしても、いわゆる旧六の中でも最高値を示しております。

これは、新制大学の構成母体のなかに、旧制高等学校が入っていないか、種々の歴史的背景によるものと思われまふ。さて、ご承知のように、今や、わが国的高等教育は大きな変革を

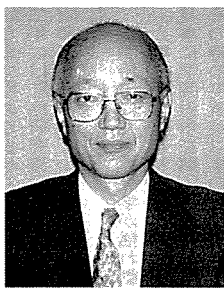
せまられております。終戦直後の学制改革に次ぐ、第二の大改革ともいわれておりますし、その中間にあった大学紛争も加えて、三度目の大学の危機という人もあります。少し具体的に申しますと、臨教審及び大学審議会の一連の答申を

医学部長就任のご挨拶

千葉大学医学部病理学第二講座教授

近藤 洋一郎 (昭33卒)

このたび医学部長を拝命いたすこととなりました。かえりみますと、学生時代を含め四十年近くも当医学部のお世話になっております。



その発展のために多少なりともお役に立てばと念じ、重きに過ぎたる任ではありますが敢えて瘦肩に担うことを決意いたしました。昨今の大学をとりまく情勢には、容易ならざるものがあることは御

うけて、昨年三月には、学校教育法の一部が改正され、医学部における進学課程、専門課程の区分に関する規定が廃止されました。また六月には大学設置基準が改正され、一般教育、専門教育科目等の授業科目の区分に関する規定も廃止されました。各大学は、それまでの教育目標を定め、創意工夫により特色なる教育課程を編成することが求められている次第です。

医学部にとっては、卒前の臨床実習の強化、医師国家試験の三月実施、六年一貫教育の力キユラムの編成、更に大学院の重点化等々、多くの課題を一気に解決することが迫られております。

まあ、大変な時期の学長再選というわけですが、過去四年間には大学改革関係の各種委員会が組織され、部局長・評議員の方々はもちろん、若い教職員の方々とともにフランクに話し合っており、この改革を乗り越え、千葉大学の質のより一層の向上を目指したいと思っております。るのな同窓会の諸兄のご援助をお願いする次第です。

教授昇任 (北海道大学)

小池 隆夫 (北大昭47卒)

(千葉大第二内科講師)

講師昇任 (平成四年五月以降)

盛永 直子

(千葉大文理学部昭42卒)

黒見 坦 (京大薬昭42卒)

高次機能研・発達生理分野

横須賀 収 (昭50卒) 第一内科

浅野 武秀 (昭44卒) 外科学二

児玉 和宏 (昭53卒)

精神神経科

岩本 逸夫 (昭48卒) 第二内科

池平 博夫 (神戸大昭55卒)

放射線科

人事異動

名誉教授授与 (平成四年五月)

本田良行教授 (生理学第二)

村山 智教授 (薬理学)

内田昭夫教授 (生体情報分野)

石黒義彦教授 (千大看護学部)

教授昇任 (平成四年五月以降)

福田康一郎 (昭41卒) 生理学一

北田 光一

(千葉大薬学部昭45卒)

医学部附属病院薬剤部

中谷 晴昭 (北大昭49卒)

薬理学

祝 平成四年春叙勲・表彰

勲五等双光旭日章

勲五等双光旭日章

地方行政功労者文部大臣表彰 (平成四年度)

小西 善磨 先生 (昭18専卒)

山本 六弥 先生 (昭18専卒)

森 亘敬 先生 (昭26専卒)

千葉大学元学長、名誉教授 香月秀雄先生を追悼して

千葉大学肺癌研究施設長

山口 豊 (昭31卒)



恩師香月秀雄先生には平成四年八月十四日、千葉大学病院にて、腎不全のため七十五歳にて御永眠されました。

先生はいくつかの病魔を早くからお持ちでした。またこの数年の間に腎、白内障、胃の手術も受けられました。しかしこれら多くの業病がお体に宿っておられたにもかかわらず、後述のような幾多のお仕事を決して弱気をみせず、成し遂げられました。一昨年の暮、胃切除を行ってからは歩行困難に悩まされたりもしました。また一方で糖尿病性腎症により腎機能が徐々に悪化し、本年一月頃より腎不全を招来し、二月始めより透析を行うことになりました。一時

改善がみられたので退院され、外来通院による透析をしていましたが、再入院されることとなり、以来悪化の一步を辿り、八月十四日に永眠されたのであります。

先生は昭和十六年に千葉医科大学を卒業され、直ちに本学第一外科に入局されましたが、一月後には海軍軍医として従軍され、終戦後の昭和二十一年四月に帰還されました。真珠湾攻撃に始まって、ミッドウェー沖海戦などの多くの海戦に参加された歴戦の勇士であります。母校に戻ってこれられ、故河合直次教授に師事されました。

昭和三十四年に肺癌研究施設が認可されて、専任講師となり、昭和三十六年には助教に昇任され、昭和三十七年八月に教授に昇任されました。昭和三十七年十二月の年押し迫った年末に野球場の上のバラック小屋に引っ越し、そこに教授室、図書室、医局などを持ち、また薬学部跡に病室と外来がで

き、年も明けた1月から肺外科の診療科名にて研究、診療が始まりました。香月先生の統率下日本の肺癌研究をリードする施設として発展し、日本肺癌学会本部がおかれ、数多くの業績を挙げたことはいうまでもありません。昭和四十二年には肺癌研究施設長となられ、昭和五十一年七月まで務められました。

学園紛争にて千葉大学が揺れ動いた時に、学長事務取扱となり、見事に学園紛争を鎮圧されました。その時の実績が以後の香月先生の履歴を形作ることにあります。昭和四十六年四月より二期、四年にわたって附属病院長を勤められ、全国医学部長・病院長会議会長等として広く我が国の医学教育の整備と水準向上に寄与されました。

以来千葉大学の病院長が全国附属病院長会議に設置の常置委員会の常置委員長を歴代就任するようになったのであります。引続き昭和五十年四月より千葉大学医学部長に選任されましたが、翌年昭和五十一年八月には千葉大学学長となられ、大学の管理運営体制を確立し、長期的展望の下に真の総合大学への整備方針を策定されて二期六年を勤め上げられ、千葉大学を学生数が四番目の国立大学に整備、拡充されたのであります。ご退官後直ちに、当時新設されることになっておりました放送大学学長に就任され、平成元年四月に任期満了により退職されました。さらにそ

の間、先生は文部省大学設置審議の会長、国立大学協会副会長等の要職にあつて、特に大学設置審議の会長としては、文部大臣の諮問に依りて大学および高等専門学校の新設の認可、学位に関する事項の調査審議、大学および短期大学の認可など同審議会の中核にあつて広く我が国の大学教育の発展に貢献されました。

このように千葉大学長になられた以降、先生は学問、研究から離れた広い大学教育といった面での功績が高く評価されておりますのはお立場上当然ではありますが、しかし医学者としても高く評価されなければなりません。そのことは先生が研鑽を積み重ねられて得られた診療、研究の業績が高く評価され、日本胸部外科学会、日本肺癌学会、日本臨床細胞学会会長を歴任されたことにも示されております。ご専門とされる胸部外科学の分野、中でも特に肺癌の発生、診断、治療を主体として研究を進められ、我が国の肺癌発生増加をいち早く疫学的に実証され、基礎的研究の裏付けを行いつつ診断治療法を工夫、考案されて癌全般の研究発展をもたらされました。先生は「一人になつてもない得る仕事を」とおっしゃりながら、切除標本を整理されておられたかも知れません。よく一緒に仕事をしました。その学究態度は決して派手ではなかったし、堅実でさえありました。そういう時の先生は

計

報

でもありませんでした。折にふれて先生が示された御教訓はわれわれの心の中にこれからも行き続けることでしょう。最後に衷心より先生の御冥福をお祈り申し上げます。

(平成四年十月十日現在)

お詫びと訂正

前号(一〇〇号)の計報欄下段中、平山修先生とありますが、先生はご健在で活躍中ですので訂正してお詫び致します。

◇ ◇

前号(一〇〇号)について、予告いたしました「四金会」の日時は、次のように訂正いたします。

平成五年二月十七日(水)

午後五時半開始
場所：るのほな同窓会館

氏名	卒年	没年月日
林 鴻吉	(明40)	昭48
角坂 泰	(大6)	平33.3.25
長谷川武明	(大6)	昭63
青木 光	(大11)	平112.24
近藤 又一	(大12)	平12.25
金子 秀恵	(大12)	昭59
菅谷 保之	(大12)	平49.9.17
武山 駿二	(大13)	平42
平山 績	(大13)	昭63.9.19
江尻伊三郎	(昭3)	平45.5.2
鈴木 孝輔	(昭6)	平310.18
加藤 一	(昭6)	平43.25
川瀬 春雄	(昭6)	平43.25
高塚 武次	(昭6)	平41.17
原 衛	(昭7)	平49.11
永田 善久	(昭7)	昭63.3.11
三輪 栄治	(昭7)	平23.3.24
塚本 義孝	(昭9)	平311.1
森 秀男	(昭9)	平37.23
矢端 金弥	(昭10)	平311.10
窪野 進	(昭10)	平42.10
石原久米雄	(昭11)	平42.10
寛 弘毅	(東大昭11)	平31.30
水野 有文	(昭12)	平43.19
岡部 豊作	(昭12)	平42.21
山内 幸雄	(昭15)	平42.1
香月 秀雄	(昭16.3)	平48.14

平成四年度のはな 同窓会総会開催

平成四年六月二十七日(土)午後三時より千葉のはな会の主催により、J.R千葉駅五階のペリエにて、平成四年度のはな同窓会総会が開催された。まず、越川 衛常任理事の司会により進行され、貫洞一夫副会長より開会の辞により始まった。

最初に、名尾良憲のはな同窓会会長が、挨拶を述べられた。すなわち、本年度は百号記念号を含むのはな同窓会報が発行され、平成三年度の会員名簿の出版が行なわれて、会務が順調になったことを報告された。つぎに、林豊医学部長より医学部近況報告が行なわれた。更に、第二病理学講座の近藤洋一郎教授が医学部長に選任されて平成四年八月より就任されることを述べられた。

つづいて、吉田 亮千葉大学より千葉大学の近況報告が行なわれた。選挙にて再度学長に選任されて、平成四年より二年間学長を務めること、学長再任に際して、医学部の熱心な協力があつたことについての謝辞が述べられた。

岡本昭二常任理事より平成三年度の会務報告が行なわれた後、過去一年間に惜しくも逝去された五十九名の同窓会の方々の御霊に對して、越川 衛常任理事の発声により、来会者全員で心よりの黙祷を捧げた。

議事は名尾良憲会長を議長とし

て進行された。清水文七常任理事より平成三年度決算報告が行なわれ、内田成和監事より監査の報告がされた後、本決算案が承認された。さらに、清水常任理事より会員名簿のシステム管理を含む平成四年度予算案が提案された後、承認された。

更に、貫洞一夫副会長より会則のつぎの改正案が提案された。
(一)第七章十三条：「常任理事会十八名以内」を「常任理事会二十六名以内」とする。
(二)第七章二十七条：「本会に顧問若干名を置く」を「本会に参与および顧問若干名を置く」とする。
(三)第七章二十七条：「顧問は会長の諮問に応ずる」「参与および顧問は会長の諮問に応ずる」とする。以上の改正案が提案されて、承認された。

さらに、参与に萩原弥四郎氏(昭23卒)が、八地区より八名の新常任理事が選任された。
渡辺 武副会長より閉会の辞が述べられた総会を閉じた。

同会場にて、千葉大学理学部名誉教授の「植物化石について」の講演が行なわれた。
引き続き、同会場において懇親会が千葉のはな会の司会により開催され、井出源四郎副会長の開会の挨拶があり、会員相互の懇親を深めて、盛會裡に会を閉じた。

(岡本昭二記)

平成3年度 決算報告

平成4年度 予算

A. 収入の部

科 目	予 算 額	決 算 額	対予算増減額
財 産 収 入	1,000,000円	4,666,574円	3,666,574円
会 費 収 入	6,200,000	6,249,000	49,000
事 業 収 入	9,000,000	10,214,240	1,214,240
寄 附 金	100,000	100,000	0
繰 越 金	9,907,218	9,907,218	0
収 入 計	26,207,218	31,137,032	4,929,814

B. 支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	対予算増減額
1. 事 業 費			
会報発行費	1,400,000円	402,215円	△ 997,785円
名簿発行費	8,250,000	8,256,274	6,274
新会員歓迎費	300,000	300,000	0
顕彰奨学金	200,000	200,000	0
慶 弔 費	100,000	55,469	△ 44,531
支部連絡費	300,000	90,000	△ 210,000
小 計	10,550,000	9,303,958	△ 1,246,042
2. 事 務 費			
備 品 費	300,000円	0円	△ 300,000円
消 耗 品 費	400,000	602,197	202,197
通信印刷費	2,500,000	2,043,834	△ 456,166
振替手数料	180,000	270,480	90,480
会 議 費	100,000	193,754	93,754
諸 手 当 費	2,000,000	1,943,115	△ 56,885
退職金繰入金	105,000	105,000	0
謝 金 費	400,000	447,085	47,085
小 計	5,985,000	5,605,465	△ 379,535
3. 予 備 費			
基金繰入額	3,000,000	3,000,000	0
予 備 費	6,672,218	0	△ 6,672,218
小 計	9,672,218	3,000,000	△ 6,672,218
支 出 計	26,207,218	17,909,423	△ 8,297,795

C. 次年度繰越金

収入決算額 31,137,032－支出決算額 17,909,423＝13,227,609

D. 平成3年度 貸借対照表

借 方	貸 方
現 金	57,595
預 貯 金	54,676,404
振 替 貯 金	617,060
信 託	191,550
合 計	55,542,609
基 金	42,000,000
退 職 引 当 金	315,000
次 期 繰 越 金	13,227,609
(うち当期剰余金)	3,320,391
合 計	55,542,609

※基 金 平成2年末現在額 39,000,000円

A. 収入の部

科 目	平成4年度	平成3年度	差引増減額
受 取 利 息	1,500,000円	1,000,000円	500,000円
会 費 収 入	6,200,000	6,200,000	0
名簿頒布収入	300,000	9,000,000	△ 8,700,000
寄 附 金	100,000	100,000	0
前年度より繰越金	13,227,609	9,907,218	3,320,391
収 入 計	21,327,609	26,207,218	△ 4,879,609

B. 支出の部

科 目	平成4年度	平成3年度	差引増減額
1. 事 業 費			
会報発行費	1,000,000円	1,400,000円	△ 400,000円
名簿発行費	0	8,250,000	△ 8,250,000
名簿管理費	3,000,000	0	3,000,000
新会員歓迎費	300,000	300,000	0
顕彰奨学金	300,000	200,000	100,000
小 計	4,600,000	10,150,000	△ 5,550,000
2. 事 務 費			
備 品 費	1,500,000	300,000	1,200,000
消 耗 品 費	800,000	400,000	400,000
通信印刷費	3,000,000	2,500,000	500,000
振替手数料	300,000	180,000	120,000
会 議 費	200,000	100,000	100,000
慶 弔 費	100,000	100,000	0
支部連絡費	300,000	300,000	0
人 件 費	2,300,000	2,000,000	300,000
退職金繰入金	105,000	105,000	0
謝 金 費	500,000	400,000	100,000
雑 費	500,000	0	500,000
小 計	9,605,000	6,385,000	3,220,000
3. 基 金			
基金繰入額	3,000,000	3,000,000	0
小 計	3,000,000	3,000,000	0
4. 予 備 費			
予 備 費	4,122,609	6,672,218	△ 2,549,609
支 出 計	21,327,609	26,207,218	△ 4,879,609

※基 金 42,000,000＋3,000,000＝45,000,000円

教授就任の挨拶

東京女子医大整形外科講座教授

伊藤達雄 (昭42卒)

平成三年二月一日をもちまして東京女子医科大学整形外科講座の主任教授に就任いたしました。当教室は初代金子、内田、大内、森崎、田川の各教授の後、私は六代目にあたり約七〇年の歴史があります。



五十四年より富山医科薬科大学へ移り、辻教授、玉置助教授（現和歌山県立医大教授）のもと新設医大の基礎作りに参加いたしました。同六〇年に助教授となり、平成元年より高岡市民病院医療局長として病院再建に参加しました。急逝された田川前教授のあと、辻教授の御推挙をいただき今回の東京女子医科大学就任の運びとなりました。ここに改めて御世話になりました関係各位にこの紙面をお借りし、御礼申し上げます。

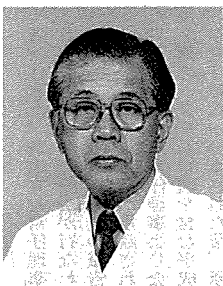
千葉大学、富山医大から私立医大のなかでも特殊な本学に参り、これまでどのギャップに悩まされたか、幸いにも小幡（消化器内科）、羽生（消化器外科）、浜野（第二外科）の各主任教授をはじめとする多数の千葉大学出身の皆様にかい御支援をいただきましたことは大いなる幸運と申せます。

整形外科はとかく力が必要との印象をいただきますが、的確な診断に基づき正しい治療、手術には力が必要であり、その意味では女性の進出も十分に期待出来る科であると認識しております。また当教室は六〇%が他学出身者であり、開かれた学問、教室をモットーとして運営したく考えております。今後とも一層のご指導、ご鞭撻を賜るようお願い申し上げます。

独協医大胸部外科学講座教授

嶋田 晃一郎 (昭37卒)

平成三年三月で定年退職された堀江昌平教授（昭23卒）の後任として、同年四月一日付で独協医大胸部外科学講座を担当することになりました。



平成三年三月で定年退職された堀江昌平教授（昭23卒）の後任として、同年四月一日付で独協医大胸部外科学講座を担当することになりました。

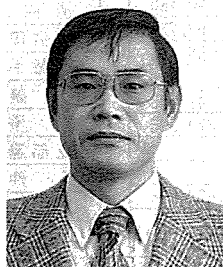
独協医大は、栃木県庁所在地である宇都宮市の南約十杆の地にあり、二十七の臨床系講座、十三の基礎系講座および教養医学科

私は、本学を昭和三十七年に卒業し、大学院を経て、肺病研究施設第一臨床研究部門（肺外科）に入局し、昭和五十二年独協医大に移るまでの十五年間の大部分を放

から成っています。大病院は約千床の病床を有し、他に埼玉県越谷市に六百十七床の分院があります。開学は昭和四十八年、来年は創立二十周年にあたり、記念事業が計画されています。ゐのはな会員では、微生物学の安村美博（昭26卒）、丹羽章（昭38卒）、第二解剖学の下沢淳海（昭31卒）、法医学の上山滋太郎（昭33卒）の各教授が教授職にあつて活躍されています。

その後、香月教授の学長就任を機として昭和五十二年十二月独協医大へ移りました。独協医大胸部外科学教室は、昭和四十五年堀江名誉教授によって開講され、これまで肺病の早期診断と外科療法をメインテーマにして来ましたが、私の就任を契機として、心臓血管外科を正式に発足させました。今後は呼吸器外科と併せて二本の柱で教室を運営して行く予定です。

現在当教室には、心血管外科に杉田洋一助教授（昭49卒）、呼吸器外科に長井千輔講師（昭50卒）の二人の本学卒業生が、それぞれの部門の中心になっています。最近の医学・医療をとりまく情勢は殊更に厳しく、私立医大に居ますと、国立大学には無い危機意識をいだくことがあります。このような情勢の中で、本年四月から副院長に就任いたしました。もとより非



千葉大学医学部附属病院薬剤部教授

北田 光 (千葉大薬昭45卒)

平成四年三月末に定年退官されました金久保好男教授の後任として、七月一日付をもつて薬剤部長に就任致しました。大変光栄に存じますと共に、その責任の重さを痛感しております。

私は千葉大学薬学部薬物学教室にて学部卒業論文と修士課程を送りました。昭和47年、修士課程修了後、薬物学教室の教務補佐員、教務職員を勤め、その後、大学院博士課程の設置に伴い薬学部に新設されました病院薬学研究室（主任 金久保好男教授兼任）の助手として、この間、医薬品の薬理作用や有害作用に影響する重要な因子の一つであります薬物代謝（特に、P450）に関する研究を続けてまいりました。その後、北海道大学薬学部助教授を経て、平成二年五月より千葉大学医学部附属病院薬剤部副部長を勤めてお

才の身には大きな重荷であります。何とか全力をつくすつもりで居ます。同窓の諸先生には、この面でも宜しくご指導下さいませようお願い致します。

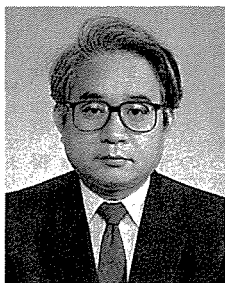
薬剤業務の多様化は加速されると
思われます。このような流れの中
にあつて限られた人員でいかに院
内の医療スタッフの要望、社会か
らの要求に応えていくか課題は少
なくありません。今後、診療科の

東京大学医学部第二内科講座教授

小 俣 政 男

留45号

この度、東京大学第二内科講
座を担当することになり、四月十
六日東大に赴任いたしました。東
大付属病院の沿革は、安政五年神
田お玉ヶ池の種痘所まで遡れるそ
うであります。明治一〇年に東



京開成学校と東京医学部が合併し、
東京大学となり、病院は東京大学
医学部付属病院となったものであ
ります。第二内科は外国人教授の
のちに、明治二十八年入沢達吉先
生が初代教授となられてのち、呉
佐々、美甘、上田、村尾、杉本の
各教授が教室を担当され、私が第
八代目と云うことになりました。循

環器病学、消化器病学、あるいは
腎・高血圧病学に幾多の人材を輩
出し、内科学発展に大きく寄与し、
その診療・研究内容も多岐にわた
っている科であります。現在の陣
容は助教一、講師六（併任三）、
助手二十一、シニア医員三十八、

先生方との連絡を密にして、歴代
の薬剤部長が築かれてきました薬
剤部をさらに発展させるべく努力
する決意しております。いはな同
窓会の皆様のご指導、ご鞭撻を心
よりお願い申し上げます。

大学院生六、留学中九、など総勢
一〇〇名を越えます。なお、東京
大学以外の卒業生は約四分の一お
ります。研究は循環器、消化器、
腎・高血圧などにわかれ、それぞ
れ二〇名前後のグループに分かれ、
総数四〇を越える研究室を利用し、
臨床および基礎研究を行っており
ます。関連病院として、関東中央
関東通信、JRR東京、三井記念、
心臓血管研究所、日赤医療セン
ター、都立広尾などあり、積極的
な人事交流を行っております。同
窓の約三〇名の方が、東京大学を
含め各地の大学医学部の学長・教
授を現在努めておられます。

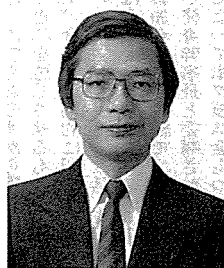
第二内科の現有病床数は五十六
であり、種々の疾病を有す患者さ
んが入院しておりますが、私が赴
任して以来、肝疾患患者の入院が
増え、現在すでに約半数は肝臓、
肝炎の患者であります。従って、
今後はむしろ、診療・研究などの
点でバランスの取れた内科学教室
になるよう努力したいと考えてお
ります。

私自身の学生時代は学園紛争の
さなかでしたが、三輪先生の退官
最終講義を受けることが出来、ま
た白壁先生が講師から順天堂の教
授に転出される際の意気軒昂な最
終講義を臨講堂で聞かされていた
目をむけよ、と云うお考えは、
当時の新入医局員にとっては斬新
であり、その後インタンクになり
六年間米国で過ごすきっかけにな
りました。競争原理が導入されや
やくはありましたが、自由な発
想を許していただいた奥田先生に
感謝しております。また、一内在
局中は、伊藤進先生、大藤教授、
若新教授をはじめ、多くの先輩
同僚には、種々お世話いただき深
く感謝しております。ともに切磋
琢磨した横須賀収、伊藤よしみ、
今関文夫ほか第一内科第二研究室
の諸師諸兄には感謝するとともに、
さらに発展的研究を行えるよう祈
念します。また、東大教授選考か
ら現在まで、学内外の多くのの方
の御厚情をいただきました。折にふ
り貴重な御助言をいただいた稲垣
吉田尚、磯野、谷口、橘各教授に
深く感謝致します。また、学外で
活躍中のるのはな同窓会の名尾
会長、女子医大の小幡、久留米の
谷川、筑波の成田、順天堂の奥村
各教授、都立豊島の町井彰、長汐
病院の塚田悦男各院長をはじめ、
多数の先生より諸々のご配慮をい
ただき感謝しております。

千葉大学医学部薬理学講座教授
中 谷 晴 昭 (北海道大昭49号)

平成四年三月末に退官されまし
た村山智教授の後任として、同年
八月一日付けをもちまして薬理学
講座の教授に就任致しました。本
講座が大正十三年千葉医科大学薬物
学教室として開設されて以来、福
田教授、林教授、小林教授、村山
教授により神経薬理を中心とした
研究領域で輝かしい先駆的業績が達
成されて来ました。私がその五代
目教授としてこの伝統ある教室を
引き継ぐ事になりました事は、大
変光栄でありますと同時に、今さ
らながらに責任の重大さを痛感致
している所でもあります。

私は、昭和49年北海道大学医学
部卒業後、田辺教授の主宰された
北大医学部薬理学講座に入り、循
環薬理、臨床薬理の基礎を一年間
学びました。その後、公立病院に
おいて三年半の内科学としての研
修を受けた後、菅野教授を初代教
授とする新設間もない北大第二薬
理学講座に助手として採用して頂
きました。それ以来現在まで、米
国シンシナチ大学に留学した時も
含め、心臓電気生理を中心とした
循環系薬理の研究を生体から細胞
膜レベルまで、広い範囲で行って



参りました。その興味の中にはイ
オン動態であり、病態生理、受容
体機構、心臓作用薬の解析にパッ
チクランブ、イオン選択性電極等
の電気生理学的研究法を用いた研
究を行って来ました。幸いにも本
講座には長年培われました優れた
神経電気生理学的研究法が受け継
がれておりますので、イオンチャ
ネルという共通した研究対象を持
つ循環薬理と神経薬理を二本の主
要な柱として、教室のスタッフと
協力し、生体から細胞膜レベルま
での研究を行って行きたいと考
えております。近年、分子生物学を
中心とした生命科学の飛躍的な発
展により、多くの学問の境界が取
り払われつつあり、薬理学にとり
ましても生理学、生化学、臨床医
学等との境界は年々少なくなつて
来ております。従いまして本学医
学部他の講座の先生方と積極的
に交流させて頂き、研究を進めて
参りたいと考えております。そし
て21世紀を担う若い医学生、研究
者にとりまして魅力のある研究室
となります様スタッフ共々努力い
たす所存です。るのはな同窓会の
皆様の御指導、御支援をよろしく
お願い申し上げます。

大学病院側との会合が七月十六日
に開催され、特定機能病院におけ
る紹介外来の問題が論議された。
全国国立大学医学部付属病院常置
委員会委員長である千葉大学医学
部付属病院の金子敏郎院長は、
この会議以降大学病院四団体の代
表として、この問題の解決に並々
ならぬ努力を払ってこられた。

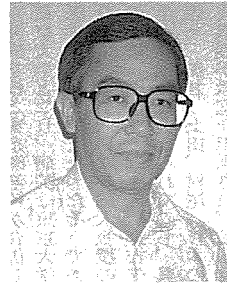
大学病院を紹介外来制とする構
想は、昭和六十二年六月、厚生省
の国民医療総合対策本部が発表し
た『中間報告』により初めて打ち
出されてきた。以来、厚生省と大
学病院との論議は五年以上にわた
り続けられてきた。

本年九月二十一日大学病院四団
体は、厚生省健康政策局長に宛て
『特定機能病院についての見解』
を提出し、紹介率の設定には時期
尚早と主張してきた。九月二十二
日に開催された第六回医療審議会
において、作業小委員会が設置さ
れて、大学病院側との交渉をする
事となった。第一回小委員会は十
月五日に、第二回小委員会は十月
十四日に開催された。大学病院側
との交渉があったが、実質的の論
議が時間切れで行われなかった。
十月二十一日第九回医療審議会に、
厚生省は改正医療法の政省令案を
諮問し、同審議会はこれを了承す
る答申を即日付した。諮問による
ては、三〇%以上とすることを目
標に、これを下回っている病院は、
五年で一〇%ずつ引き上げる年次
計画を作成するとしている。法律
・政省令施行時期はなお未定であ
る。

千葉大学医学部生理学第二講座

福田 康一郎 (昭和41年卒)

平成四年三月末に退官された本田良行教授の後任として、平成四年七月一日付で生理学第二講座の担当を命ぜられました。当講座は伝統的に植物性機能生理学の教育



と研究に携わっており、循環、呼吸、血液、体液、腎、消化管、内分泌、自律神経、体温調節など臨床と直結した分野の人体機能生理と病態生理を担当しています。最近の著しい進歩、情報量の増大、分野の細分化などのために、少数の教官による従来の教育形態では十分対応出来ない状況であることと自覚し、責任の重大さを改めて認識しております。抜本的な医学教育システムの改革が始められつつありますが、これを持つ迄もなく、担当分野の教育に相当の工夫と改良を絶えず続ける所存であります。学生の能力差や気質も変化していますが、最新の進歩を踏まえて、なお、人体生理機能の全体像が把握できるような学生を臨床に送り出すことが責務であると感じております。大学院・研究生には進歩に貢献できるようなきめ細かい配慮が必要であります。これらを私どもの講座だけで実施する

クラス会だより

昭八会クラス会

昭和八年に千葉医科大学に入學し、昭和十二年に卒業した私共昭八会には、卒業時八十二名だったのが、現存者は二十九名になり、物故者五十一名、消息不明二名である。

本年は卒業五十五周年の記念すべき年に当り、平成四年六月十四日(日)に、東京銀座の明治屋銀座ビル3階レストラン「モルチェ」に於て、クラス会を開催した。

本年度幹事菅井規矩雄兄が開会の挨拶を述べ、この一年間に惜しくも逝去された綿貫重雄兄、小川象一兄、孔祿卿兄、水野有文兄を加



野有文兄を加

部門、特に臨床各科の皆様、さらに、ゐるのはな同窓会の諸先輩のご指導を切にお願いする次第であります。

えて五十一名の物故会員の霊にねんごろな黙祷を捧げた。はるばる名古屋から出席された住田満也兄の乾杯の音頭によって宴がはじまり、フランス料理を賞味しながら、各自が若かりし日の数々の想い出を語り、「昔恋しい」此処銀座で再会出来た歓びに浸った。

明年度(平成五年)幹事は、東京都在住の藤 彰兄が引き受けて下さった。

出席者二十名(名簿順、敬称略) 稲田武夫、稲生 義、植竹 順、小沢達也、小川達子、上川名誠一、小松源二、小泉 寿、佐藤 謙、菅井規矩雄、菅井晴子、鈴木 敏、住田満也、住田エイ、林 武夫、久富良次、久富 翠、村上 実、村上ウタ 藤 彰。

(幹事 久富良次 記)

昭和三十三年卒 クラス会開催

平成三年六月一日(土)ニュートカモトホテルにおいて本年度のクラス会が開かれ、三十数名が出席した。常連にまぎって珍らしい顔も散見され、談笑の絶えない一夕で



あった。年六月第一土曜日に開催いたして居ります。平成四年は六月六日(土)午後五時から高輪プリンスホテル貴賓館2F桐の間に於て、ちょっととゴージャスな雰囲気で開催いたしました。

沖繩からこの会の為にわざわざ来られた最遠来の安里洋君の乾杯の音頭で会が始まり、久しぶり振りに出席された大藤達君(大分市)、森富喜子さん(横浜市)から近況をお話しして頂いたりして、非常に和やかな会でした。

私達のクラスでは、ドイツ・ゲッティンゲン大学の高野光司君(第二外科学)、近藤洋一郎君(第二病理学、医学部長)、清水文七君(微生物学)、新美仁男君(小児科学)をはじめ現在十七名のクラスメイトが教授として活躍して居ります。

クラス全員が全国で活躍盛りで、なかなか全員が一堂に会する事が難しいのですが、その年度の世話役のアイディアで楽しい会を続けたいと思つて居ります。今回は相原君、石坂君、小野寺君、森さんのお世話役で横浜で



昭和41年卒 クラス会

平成四年七月十八日千葉市内のレストラン「ほてい家」で四年振りにクラス会を持った。前回のク

ラス会以後、教授に昇任した高田忠敬君(帝京大学外科学)、福田康一郎君(父上の後を継いで母校の生理学、御園生正紀君(千葉県立医療短大内科)のお祝の意味もあって三十三名が集った。卒業してすでに二十五年以上経過し、毎年泊まりがけでゴルフにでかけるグループもできて、皆、肩の力を抜いてつきあえる年齢になつて来たようだ。記念撮影の後、かつて栄町にあった懐かしい店での二次会に移行した。

(落合 武徳 昭41卒)

開催して頂く予定です。(椎野 益男記)

◇ ◇ ◇
◇ ◇ ◇
◇ ◇ ◇

昭和46年卒 クラス会開催

平成三年六月八日夕刻、千葉市のホテル・ニュートンカモにて昭和四十六年卒業生による卒業二十周年クラス会が開かれた。林豊医学部長、金子敏郎附属病院長、永野敏雄教授、村山智教授、井出源四郎名誉教授、本間三郎名誉教授、萩原彌四郎名誉教授の恩師の方々に参加し賑やかな会となった。

この二十周年における千葉市の変容を当日の午後バスで巡る企画を立てたが意外にも参加希望者が少なく中止せざるを得なかったが、クラス会では来賓の先生方からスピーチを頂き、現在の医学部、医療を取り囲む環境、さらに我々が学部学生であった頃の事などが話された。乾杯の後、恩師の先生方を囲み、あるいは久しぶりに会った仲間との歓談に楽しい一時を過ごすことができた。二次会では会場が狭く二手に分かれざるを得なかったのが残念だったが、どの二次会会場も昔の思い出話に花が咲き、夜のふけるのも忘れたようでした。



次回(卒後二十五周年クラス会)で再会する事になりました。

なお、病をおして参加してくれた中川武夫君がこの七月三十日に幽冥界を異にされました。ご冥福を心から祈ります。

(幹事 小林まさ子、大里克信、中島祥夫、山橋雅彦)

エイズの公開講座
千葉大学では、医学部の担当にて、『エイズについて』の公開講座が平成五年三月に開催される予定になっている。

開催期間 平成五年三月十五日(月)より十九日(金)の五日間

場所 千葉大学医学部講堂

第一回：エイズとは何か。清水文七(微生物第一)。第二回：エイズの臨床①血液による感染及び母子感染。佐藤武幸(小児科。第三回②性感染症としてのエイズ。岡本昭二(皮膚科)。第四回③日和見感染。菅野治重(検査部)。第五回：エイズ対策①予防教育と社会問題。武田敏夫(教育学部)。②行政の対応。山崎彰美(千葉県衛生部予防課長)

第十七回のはな 美術展開催される

平成四年七月七日から十三日まで七日間、例年どおり銀座集雅堂ギャラリーで開催されました。本年は出品者二十名、作品三十七点、出品しなかった会員六名で、昨年度と略同じでした。会員の年毎の加齢にかかわらず、作品から発散されるエネルギーは力強さを増して行くようで、桜田精一画伯の批評はそれを裏付けるものでした。画伯の批評も本年は二年目でいささか辛口になり、各作品に就いて丹念に技術的な面で問題点を指摘されていました。医師の日々の仕事は繊細な神経を使う性質のものであるから、余技である創作活動においては反対に大胆活発であって欲しいとのことでした。来年度も同じ時期に開催予定で、昭和四十二年卒酒井忠昭氏が参加予定です。

出品作品と会員はつぎのとおりです。

美術展出品作品
92・7・7・7・13
集雅堂ギャラリー銀座、東京

井上 通(S24)
水彩 ①作品A ②作品B
長谷川雄雄(S35)
油彩 風景 学園都市
仲村 長正(S29)
油彩 ①トビの泉 ②花
神山 英明(S22)
油彩 ①椅子のヌード ②タ
イヤとカンテラ

伊藤 行男(S5)
油彩 ワーブリッジ
島田 哲男(S41) 油彩 印旛沼
細井 四郎(S12)
油彩 ① ②三浦風景
石谷 治彦(S24)
水彩 ①花 ②立像のある風景
斎藤 英一(S16) 洋画婦人像
山口 庚児(S31)
油彩 ①トルコ桔梗 ②五月の安曇野
今井 知文(S4)
油彩 ①思い出 ②欣欣
山川 晋吾(S24)
油彩 ①マース川沿いの家並み ②祭りの街角、ブルー
内田 成和(S17)
陶器 茶碗 銘 中城の趾
焼又
大村 光(S17)
油彩 ①②ニス風景
今井 力(S22) 油彩 早朝
池田 修三(S6) 水彩 不出品
山口 宗彦(S38)
油彩 ノカルディア
野口 真利(S40)
油彩 ①ふ頭のタペ ②塩屋崎
長尾 透(S16)
油彩 クリークの街紹興
宮下 久夫(S38) 洋画 額装陽花
斎藤 宗寿(S16) 不出品
山崎 衛(S19) 不出品
山口 慶三(S31) 不出品

図説体表解剖学、 窪田金次郎著が出版された。

〈体裁〉A4変型判二二〇mm×二七〇mm、二八〇頁、金ページカラーオフセット印刷
〈価格〉定価一〇、三〇〇円、送料三六〇円
〈発行所〉朝倉書店
〈本書の特徴〉

- 一、八〇〇に及ぶ生体写真で体表をありのままに写し出し、視てすぐわかる解剖図で、その詳細を対比してある。
 - 二、解剖図は、いろいろな技法で仕上げ、触診・注射・切開などは線画で表示した。
 - 三、内容は、臨床解剖学的観点から表面構造やからだの開口部を考慮して構成してある。
 - 四、体表の表示では、臓器の打診・聴診・穿刺・伝達麻酔などに役立つような深部の臓器の局所解剖学的関係を詳述した。
 - 五、四肢は、体表解剖学と実地臨床的応用との密接な関係を明確にして、各分野の専門家の要求に応えるよう詳述した。
- 〈読者対象〉臨床医・基礎医学者・医歯学部学生・看護婦・歯科衛生士・臨床検査技師などパラメディカル・パラデンタル領域・人類学者・生物学者・スポーツ・芸術家など。
- 〈宅急便の取扱〉直接朝倉書店営業部(元岡)宛に電話すれば書籍代金・配達料着払いの宅急便システムで購入出来る。
- 〈営業部直通電話〉〇三三二六〇一七六三三
- 窪田金次郎(S23卒)

病院D棟完成

千葉大学医学部附属病院においては、平成三年より建築中であった中央診療棟D棟が平成四年十月三十日に完成した。この診療棟D棟は、医療情報部、病歴室、電算室、検査部の一部、理学療法部の一部により使用される予定である。D棟の新たな病歴室には、最新式の病歴搬送装置が設置されているので、外来棟の各診療科には、外来病歴の搬送が従来より便利になると期待されている。電算機器を含め医療情報部の移転のために平成四年十二月二十八日(月)の外来診療は休診となる予定である。

斎藤 篤(S34) 不出品
森本 一善(S3) 不出品

(順不同)

あのはな美術展事務所
東京都新宿区高田馬場1-25-29
TEL 03-3220-0007
石谷医院 石谷治彦(昭和24)

埼玉医大小児科 故前田和一教授の大学葬

去る平成四年七月二十九日心筋梗塞にて急逝された埼玉医大小児科教授故前田和一先生(昭26卒)の埼玉医大大学葬が、八月十五日に埼玉医大練成館にて行われました。



受けたたて、ご活躍されました。葬儀会場には、るの は な 同窓会会員および大学関係者にて満ち、葬儀は肅々と行われました。次々と各界の方々の追悼の辞が述べられました。同級生の金沢医大教授四家正一郎先生が四十年來の親友を亡くした悲しみをたんと述べた追悼の辞は、切々と胸迫るものがありました。最後に旧制水戸高等学校の惜別の寮歌には、胸うたれるものがありました。もう前田先生のすがすがしい笑顔には会う事はできません。前田先生の死去に深く哀悼の意を表するとともに、御冥福を心よりお祈りしています。

石井 邦夫(昭26卒)記

るの は な 同窓会 会員補償制度について(案)

るの は な 同窓会では、同窓会員の福利厚生事業の一環として、「会員総合補償制度(勤務医師賠償責任保険+所得補償保険)」の実施について検討しております。先般この件につきまして、アンケートをさしあげましたが、多数の会員よりお返事をいただきました。その内容について、以下紹介いたします。

- (一) 所得補償保険
勤務医師賠償責任保険
引受保険会社
東京海上火災保険株式会社
一、所得補償保険とは
万一病気やケガで働けなくなった場合、月々の収入を補償するのが所得補償保険である。
- (二) 勤務医師賠償責任保険とは
万一勤務医が日本国内で行なった医療行為により、患者の身体に障害を与え、法律上責任を負担した場合に補償するのが勤務医師賠償責任保険である。

一、この賠償保険に加入できる方は、千葉大学のるの は な 同窓会員で、病院等に勤務している先生方で、日本医師会会員は除きます。

るの は な 同窓会 整備についてお礼とお願い

平成四年度には、るの は な 同窓会の、より活性化のための施策として「会員名簿の整備」を重点に取り組んでおります。とくに、若年層の会員の方々は、関連病院への出張などにより勤務先の変更が多いため、会員の連絡先が十分に把握できていないのが現状であります。千葉大学医学部後援会の名簿により、父兄の方々へ連絡をとらせていただき、会員の現住所の確認をいたしています。このよう背景のもとに、名簿整備のた

め問合せを、会員総合補償制度のアンケートと同時に送付しましたところ、多数の会員よりご返事をいただきました。またこれにより、若年層の会員の方々は、関連病院への出張などにより勤務先の変更が多いため、会員の連絡先が十分に把握できていないのが現状であります。千葉大学医学部後援会の名簿により、父兄の方々へ連絡をとらせていただき、会員の現住所の確認をいたしています。このよう背景のもとに、名簿整備のた

るの は な 同窓会 会 務 分 担				編 集 後 記			
役 職	氏 名	卒 年	支 部	代 行	井 上	清 (昭20)	群 馬
会 長	名 尾 良恵	昭13		代 行	沖 真澄	昭22	群 馬
副 会 長	井 出 源 四郎	昭19	大 学	代 行	熊 谷 信夫	昭28	長 野
副 会 長	貫 洞 一夫	昭22	東 京	代 行	宮 坂 斎	昭42	長 野
副 会 長	渡 辺 武	昭27	千 葉	代 行	宮 坂 斎	昭42	長 野
常 任 理 事	大 藤 正雄	昭29	大 学	代 行	井 上	清 (昭20)	群 馬
庶 務	新 美 仁男	昭33	東 京	代 行	井 上	清 (昭20)	群 馬
	長 沢 仁一	昭24	東 京	代 行	井 上	清 (昭20)	群 馬
	平 沢 俊児	昭25	東 京	代 行	井 上	清 (昭20)	群 馬
	森 博志	昭31	千 葉	代 行	井 上	清 (昭20)	群 馬
	藤 宗徳	昭37	千 葉	代 行	井 上	清 (昭20)	群 馬
	清水 文七	昭33	大 学	代 行	井 上	清 (昭20)	群 馬
	磯 野 可一	昭33	大 学	代 行	井 上	清 (昭20)	群 馬
	高 木 一男	昭24	東 京	代 行	井 上	清 (昭20)	群 馬
	山 上 健次郎	昭17	東 京	代 行	井 上	清 (昭20)	群 馬
	渡 辺 誠之	昭21	千 葉	代 行	井 上	清 (昭20)	群 馬
	伊 東 和人	昭24	千 葉	代 行	井 上	清 (昭20)	群 馬
	岡 本 昭二	昭27	大 学	代 行	井 上	清 (昭20)	群 馬
事 業	岡 本 昭二	昭27	大 学	代 行	井 上	清 (昭20)	群 馬
	嶋 田 裕昭	昭35	大 学	代 行	井 上	清 (昭20)	群 馬
	大 池 和祐	昭24	東 京	代 行	井 上	清 (昭20)	群 馬
	小 杉 秀雄	昭24	東 京	代 行	井 上	清 (昭20)	群 馬
	越 川 衛専	昭23	千 葉	代 行	井 上	清 (昭20)	群 馬
	益 男 昭33	千 葉		代 行	井 上	清 (昭20)	群 馬
	富 田 裕昭	昭30	神 奈 川	代 行	井 上	清 (昭20)	群 馬
	高 橋 裕昭	昭32	神 奈 川	代 行	井 上	清 (昭20)	群 馬
	三 井 静	昭38	山 梨	代 行	井 上	清 (昭20)	群 馬
	清水 天	昭39	山 梨	代 行	井 上	清 (昭20)	群 馬
	斯 波 隆昭	昭39	静 岡	代 行	井 上	清 (昭20)	群 馬
	望 月 俊昭	昭28	静 岡	代 行	井 上	清 (昭20)	群 馬
	千 代 倉 俊昭	昭15	埼 玉	代 行	井 上	清 (昭20)	群 馬
	新 藤 清司	昭16	埼 玉	代 行	井 上	清 (昭20)	群 馬
	高 村 良平	昭23	埼 玉	代 行	井 上	清 (昭20)	群 馬
	茂 村 豊喜	昭20	茨 城	代 行	井 上	清 (昭20)	群 馬
	佐 藤 忠夫	昭29	茨 城	代 行	井 上	清 (昭20)	群 馬
地 区	平 形 義人	昭19	群 馬	代 行	井 上	清 (昭20)	群 馬